

令和5年度学校自己評価システムシート (県立岩槻北陵高等学校)

目指す学校像	地域の信頼に応え、節度と規律を重んじ、新たな自分の創造に向け、主体的に学び続ける生徒を育む学校
--------	---

重点目標	1 生徒の学ぶ意欲と確かな学力を向上させ、生徒一人ひとりの進路実現を図る 2 家庭・地域への情報発信を通じ、学校への理解を深める 3 基本的な生活習慣を確立させ、規律ある安心・安全な生活を送る 4 生徒の自主的活動を通じ、社会に貢献する心豊かな人間を育てる
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	授業の環境整備等が整えられ、落ち着いた授業に臨む生徒が増えている。 一層授業に集中できる環境づくりや今後の感染症対策に注視しながら、学びの質の維持、学習機会の保障のため、必要に応じてオンライン授業等を実施するなど、ICT環境の活用を図っていく。 進路ガイダンスやインターンシップ等とおし、進路意識は向上している。進学希望者への実力養成と就職者への働く意識の向上を図る。	(1)学習環境を整備・充実・発展させ、学習に集中できる環境を整える。「学び直し」を活用するとともに、ICT環境の充実を図り、生徒の基礎基本の定着を徹底させ、「わかる」授業を目指す。	①チャイム to チャイムを徹底し、授業規律を確立させ、学習環境を整える。 ②オンライン授業等のICT環境の整備・調整を行う。 ③朝学習、放課後、考査前勉強会を実施する。 ④安全な学習環境を図るため、安全点検を実施する。	①生徒アンケート「チャイム着席」の状況。(昨年度95.0%) ②オンライン授業等のICT環境の整備状況。 ③各種勉強会への生徒の参加状況。 ④安全点検等の実施状況。			
		(2)生徒の進路意識を3年間を見通して段階的に向上させ、生徒一人ひとりの望ましい進路実現を目指す。	①分野別ガイダンスやインターンシップを実施する。 ②模擬試験の受験者数を増やすとともに、実力養成講座の利用者を増加させる。	①ガイダンスやインターンシップの実施状況。進路未定者の減少。(昨年度未定者6.5%) ②模擬試験及び実力養成講座への参加状況。			
2	学校行事や公開授業等をコロナ感染防止対策を踏まえて実施している。 学校の取組や生徒の活躍の様子を、地域、近隣中学校、外部機関に効果的にアピールし、本校への理解を一層深めていく。HPの適宜適切な更新や一斉メールの効果的な活用が必要である。	HPや学年通信等を用いた情報発信を充実させ、家庭や地域に本校の取組が伝わる体制を充実させる。また、地域行事への関わりを持ち、学校の取組の様子を伝える。	①学年通信や分掌通信等をHP配信し、学校の取組を発信するとともに、一斉メールの運用も図る。 ②地域行事等に積極的に参加する。 ③PTAへあいさつ運動や学校行事の参加を促し、生徒との活動の設定する。	①HPの更新状況。学年・分掌・部活動等HPの更新回数。 ①学年通信等の発行状況。 ②地域行事への参加状況。 ③PTAの学校行事等への参加状況。			
3	生徒の様相が変わる中、学校生活における基本的な生活習慣の改善を要する生徒が増えている。身だしなみ指導件数、遅刻者数及び欠席者数減少に向けた取組を継続していく。また、交通マナー改善に向けた取組も継続していく。	教職員間で生徒指導体制の共通理解を図り、学校全体として、系統的、一貫した生徒指導に取り組む。自主自立の精神の育成のため、生徒心得等を踏まえた身だしなみ・マナー・ルール・時間管理の意識を向上させる。	①下校巡回指導、昇降口での立哨指導、遅刻0運動を実施する。 ②身だしなみ指導を実施する。 ③携帯電話のマナー推進を外部機関、家庭連携強化し、使用ルールを徹底させる。 ④自転車マナーアップ推進を外部機関と連携する。	①遅刻者・欠席者数の減少の割合。(遅刻指導対象者数前年比15%減) ②身だしなみ指導の指導件数状況。 ③外部機関との連携状況及び携帯電話使用に対する指導件数の状況。 ④交通トラブル、苦情・事故件数の減少。			
4	コロナ感染症対策を踏まえながら、生徒会活動や部活動を活発に実施している。今後の感染症対策に留意しながら、生徒の自己有用感向上のため、様々な場面で生徒が自ら考え主体的に活動し、活躍できる場を設定する。 特別な支援が必要な生徒や課題のある生徒への速やかな対応のため、校内体制の充実を図るとともに、各種の支援を実施する。	(1)生徒会を中心に、生徒の主体的な活動を促す。団活動やその他の行事を通して、生徒の自己有用感を高める。	①各行事において生徒に主体的に運営させる。 ②団活動や生活委員会等の委員会活動を活性化させる。 ③防災訓練や薬物乱用防止教室など各種訓練・講演会を実施する。	①文化祭等学校行事における生徒の運営状況及び満足度。 ②団活動及び委員会等の活動状況。 ③各種訓練・講演会・研修会の実施状況。			
		(2)教育相談員やSC、SSW、外部機関との連携を強化する。特別支援教育、日本語指導体制の充実を図る。	①教育相談・特別支援教育委員会を定期的に開催し、課題のある生徒への対応を行う。 ②日本語指導支援員を有効活用する。	①支援が必要な生徒や課題のある生徒への対応状況、 ①外部機関との連携状況。 ②日本語指導の実施状況。			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	令和	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		